

病気になるっても住み慣れた環境で過ごしたい

在宅医療を望むあなたに

在宅医療のイメージ



(※)訪問診療は平均月に1～2回の頻度で行われます。訪問看護は医師の指示書に基づき行われ、状態に応じて回数が変わります。

西淀川区在宅医療・介護マップは右のQRコードからアクセスしてください。



- 国の調査によると、約70%の人が自宅での最期を希望しているにもかかわらず、実際に自宅で亡くなった人は約15%しかいません。
- 在宅医療は年齢や病気による制限はなく、通院が困難であれば誰でも受けられます。
- かかりつけ医、病院担当者、地域包括支援センター、ケアマネジャー等に相談してみましょう。

～人生会議をはじめてみませんか？～

超高齢化社会をむかえ、人生100年とうたわれる時代になりました。そんななか、皆さんはもしもの時のことを考えたことがありますか。人はいつ、どこで、どんな病気や事故などで命にかかわるような状態に陥ってしまうかわかりません。そういった状態になった場合、約7割の人々がこれからの治療や介護などについて自分で考えたり人に伝えたりすることが出来なくなると言われています。つまり、自分が思い望むような治療などを受けることが出来ない可能性が高くなります。ここでキーワードとなるのがACPです。



Advance Care Planningの頭文字をとったものです。ただ、これだけではわかりにくく厚生労働省は「人生会議」という愛称をつけ啓発に努めています。要するに、人生会議とは自分が最期を迎えようとするときにどこで、どのように過ごしていきたいかということをもまずは自分自身でよく考え、そして周りの支えてくれる人達ともよく話し合い、自分の思いや考えを知ってもらおうといった一連の過程を指します。終わりよければすべてよしという言葉がありますが、納得のいく最期を迎えるためにも人生会議をはじめてみませんか。

一般社団法人 西淀川区医師会 会長 若杉 太郎

制作：に～よん地域包括ケアシステム委員会・西淀川区役所保健福祉課（健康推進グループ）

電話 06-6478-9882

2020年7月発行

もし、余命が残り少ないと告げられた場合、あなたは**どのような医療**を受けたいですか？

できるだけだけの延命治療をしてほしい

自分が望む生活ができる程度に、苦痛を取り除く治療を受けたい

回復の見込みがなければ延命治療はしないほしい

もし、日常生活で介護が必要となった場合、あなたは**どこで過ごしたい**ですか？

家族やヘルパーのサポートを受け、自宅で生活したい

病院などの医療機関

老人ホームなどの福祉施設

その他()

もし、意思表示が困難になった場合、今後の医療やケアを**誰に選択してほしい**ですか？

家族や兄弟

親しい友人や知人

その他()

選択してほしい方
名前()
関係()



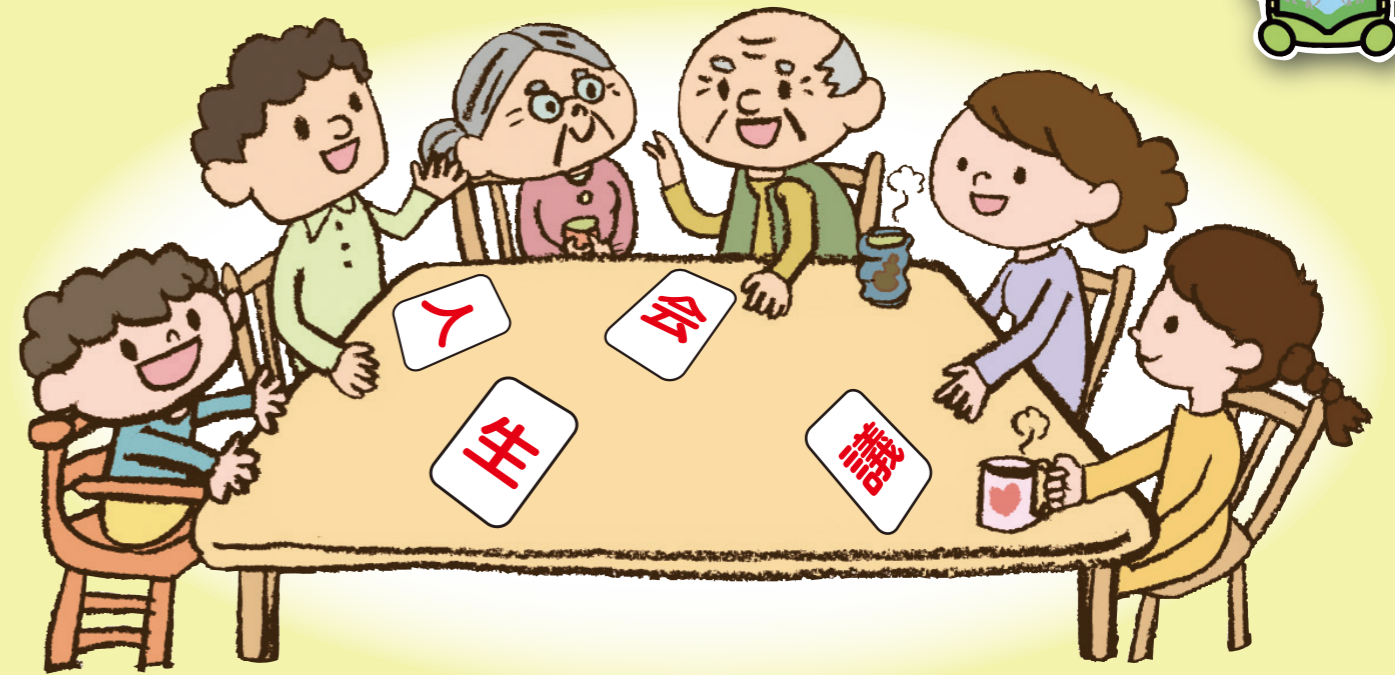
西淀川区

2020年版

に～よん参考書

～人生会議（アドバンス・ケア・プランニング）編～

最期まで自分らしく生きるために



～“もしも”に備えて話し合おう～

人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）とは

命の危険が迫った状態になると、約70%の人が、医療やケアなどを自分で決めたり、望みを人に伝えたりすることができなくなると言われています。“もしも”に備えて、自分が望む医療・ケアについて、日頃から家族やかかりつけ医に伝えておくことで、自分の意向が反映されやすくなります。

- <編集> 西淀川区地域包括ケアシステム委員会 区民啓発グループ会議
西淀川区医師会（在宅医療・介護連携相談支援室）／西淀川区地域包括支援センター
西淀川区南西部地域包括支援センター／西淀川区社会福祉協議会（生活支援体制整備事業）／西淀川区役所
- <発行> 西淀川区役所
- <協力> 一般社団法人 西淀川区医師会／一般社団法人 西淀川区歯科医師会／一般社団法人 西淀川区薬剤師会